

9月21日(土)、1・2時間目に授業参観が行われました。その後、校長講話、進路講演会が行われ、約150名の保護者・生徒が参加しました。

「多様性社会の中で求められる人材育成とは?」というテーマを与えられて、校長講話を行いました。多様性社会とは? 多様性社会を感じる時は? そうした変化を意識できる事象を挙げながら、まさに現在、求められる人材育成について話させていただきました。その中で、「ふつつって何だろう」「ふつつは変わる」ということに触れました。「ふつつ」という意識は、人が置かれている環境や立場によって異なります。自分がふつつと思っても他者にとってはふつつとは限りません。大切なことは相手の立場になって捉えることの重要性ではないかと。

(右の写真は、田村アナウンサーとのツーショット)



「奇跡を待つより、捨てる努力」

「多様性社会の中で求められる人材育成」、それは単に個々の違いを尊重するだけでなく、それを強みとして活用する能力を持つ人材を育成することにあるのではないのでしょうか。すなわち、「見えない力」(非認知能力)を育むことがその支えの一つになるのです。具体的に言うと、

1. 「自分と向き合う力」
(自制心・忍耐力、レジリエンス(回復力))
2. 「自分を高める力」
(意欲・向上心、自身・自尊感情、楽観性)
3. 「他者とつながる力」
(コミュニケーション力、共感性、協調性)

※『教師のための非認知能力の育て方』(中山芳一著)から
といった力だと言われています。多様性社会において、非認知能力を育成することが求められるに違いありません。校長講話にて、以上のようなお話をさせていただきました。

さて、人は人と出会い、その出会いによって人は磨かれていくのだと思います。まして、その出会いが深く、学び多きものであればなおさらなのではないでしょうか。

4時間目、RCCアナウンサーの田村友里さんを講師にお招きし、「ガッツ!で夢を叶えるためには。」というテーマで講演会を開催しました(その様子は本校ホームページブログにも掲載済)。圧倒的な明るさを誇るテレビやラジオでお馴染みの田村さんですが、内面の繊細さや努力の足跡に触れることで、一気にファンになった保護者・生徒が多かったのではないかと思います。

田村さんは、小学生の頃に元フジテレビ・アナウンサーの高島彩さんに憧れたそうです。どうしたらなれるのかと母親に相談すると、「しっかり勉強して賢くならないと」の一言で一念発起したそうです。中学受験(中高一貫校)、大学受験(東京大学を目指すも…)を経て、何十社ものアナウ

ンサー採用試験に挑戦。その間の努力たるや、面白おかしく披露してくれましたが、辛酸をなめる想いの連続だったに違いありません。しかし、面接に向けての準備、工夫と努力は凄まじいものがあったようです。そんな時、中学受験の際の塾の先生から伝えられた「奇跡を待つより、捨てる努力」を思い出し、必死に取り組んだのだそうです。その結果、株式会社中国放送(RCC)に採用されました。

田村さんはアナウンサーとして、あるいはレポーターや番組の様々な企画などで出演しているときでも、全力で取り組んでいる姿が映し出されます。実際、「捨てる努力」を信条としているのだそうです。だから、「ガッツ!」なんだと納得するばかりです。

田村さんは夜のラジオ番組で、リスナーからたくさん質問をいただくとのこと。その中から「夢のない人はどうしたらいいですか?」という質問の回答を紹介してくれました。

「その1、とにかく『勉強を頑張る』。夢がない人は勉強を頑張っておいた方がいいです。夢が見つかったとき、勉強をしていればきっとそれが生かされるはず。していないと、後悔しかありません。その2、『好きを極める』ことです。好きだと思って取り組んでいると、そのことを極めることになり、やがて夢へと変化していくかもしれないからです。」

「悩んだときはどうしますか?」という質問には、「とにかく本を読む。自分の悩みと重なる内容の本を読むことで、その悩みが少しでも解消されるはずです。」

「奇跡を待つより、捨てる努力」のとおり、夢を追い続ける田村さんの一つひとつの言葉と笑顔に、みなさん魅せられたようです。この出会いを大切にしたいものです。